

| | | | | | |
|--|------------|---------------------------------------|-------------|-----------|---------|
| 2013-B | | | | | |
| 拠出金・基金の名称 | | 国際農業研究協議グループ拠出金／国際半乾燥熱帯作物研究所(ICRISAT) | | | |
| 種別 | | イヤーマーク ノン・イヤーマーク | | | |
| 【拠出先の国際機関名】 国際農業研究協議グループ(CGIAR)/国際半乾燥熱帯作物研究所(ICRISAT) | | | | | |
| 【所管官庁担当局課・室名】 農林水産省大臣官房国際部国際協力課 | | | | | |
| 【当該任意拠出金の目的・用途等】 | | | | | |
| 途上国農家が実施可能で、農業生産環境の変化に適応した持続的な農業栽培技術の開発を支援する。 | | | | | |
| 【最近3年間の我が国支払額及びODA率】 | | | | | |
| 単位 | 邦貨 (千円) | 外貨1 (千米ドル) | 外貨2 (千) | レート | ODA率(%) |
| 平成25年度 | 17,962 | 219 | - | 1米ドル= 82円 | 100 |
| 平成24年度 | 19,959 | 246 | - | 1米ドル= 81円 | 100 |
| 平成23年度 | 26,152 | 294 | - | 1米ドル= 89円 | 100 |
| 【当該任意拠出金等の意義、成果等に関する我が国としての評価】 | | | | | |
| <p>ICRISATは、国際農業研究協議グループ(CGIAR)に属しており、半乾燥熱帯の農産物の研究センターとして設立された。従来から邦人専門家が滞在して共同研究を実施して熱帯作物の生産性向上に資する成果が生まれている。近年、干ばつによる穀物の不作が頻発し、飢餓・貧困に苦しむ人口が多い熱帯半乾燥地域での持続的食料生産に資する研究の重要性が高まっており、こうした地域の主食であるマメ類や雑穀について研究蓄積を有する我が国と連携を密にすることにより、開発途上国の持続的農業の発展に貢献すると考えている。</p> <p>地球規模の気候変動など、農業生産環境が大きく変化する状況の下、食料の多くを輸入に頼る我が国が世界の食料安全保障に貢献することは大きな課題である。IPCC第4次評価報告書によると、気温の上昇に伴い、特に低緯度地域の途上国で穀物生産性が低下することが予想されている。</p> <p>そのような中で、環境汚染と食料増産を同時に解決するため、ICRISATへの我が国の拠出金事業として、半乾燥地域で栽培されるソルガムが持つ生物的硝化抑制能(土壤に施用された窒素肥料の硝化を抑制し、その利用効率を高める機能)を活用し、ソルガムの窒素施肥に関するガイドラインを策定する研究開発を実施している。本事業により、ソルガム窒素利用効率を大幅に向上させる施肥手法が明らかになってきた。</p> <p>本事業は拠出に当たり研究計画書・予算計画書等について事業開始前に事前に当方で確認し、最終的に承認をすることにより、農林水産省としての意見が反映されている。</p> <p>我が国としても上記の事業をはじめとしたICRISATの取組を高く評価しており、人的貢献を含めて可能な協力を行いたい。</p> | | | | | |